2022年度　事業報告
生活介護事業（ポップコーン、第二ポップコーン）
就労継続支援B型事業（ポップコーン）

＜新型コロナウイルス感染症の動向と対応について＞

今年度も新型コロナウイルス感染対策と対応の難しさに追われた1年でした。

感染対策は、来所時の検温や消毒。日中においても手洗い、消毒、換気、体調不良時は、病院受診を促すなどの対策を継続して行いました。しかし、感染対策を徹底していても、全国的に感染者数が増加するにつれ、仲間・家族・職員の感染が相次ぎました。（幸い、いずれの感染者も重症化することなく無事に回復しています。）

第二ポップコーンにおいては、仲間が感染したことにより8月と11月にそれぞれ3日間、2日間の臨時休業を余儀なくされました。特に8月の臨時休業の間には、最初に感染が判明した仲間を含め6名の仲間が感染するという事態に至りました。

仲間や職員に感染があった場合に施設としてどういった対応をとるべきか、その判断には常に困難を伴いました。9月からは自宅療養期間や濃厚接触者の期間の短縮など一部基準の緩和がなされましたが、マスクの着用など感染対策が難しく、重症化のリスクのある仲間たちを基準に通り当てはめてよいのか、陽性報告の度に保健所へ療養期間や濃厚接触者の割り出しなどについて相談、指示を受けるも、最終的には政府の基準通りとしか返答がありません。そこから先は、施設の判断に任せる見解へ変わっていきました。そうした中、私たちは政府の基準通りの療養期間に合わせていくのではなく、仲間たちが感染した場合に療養期間は10日間、濃厚接触者は5日間の自宅待機を継続し施設内感染防止に努めた次第です。

また、今年度も自宅療養者や濃厚接触者に対し代替サービスを実施しました。今年の1月からは、感染者に関しては福祉ではなく医療での対応という見解に変わり、代替サービスの対象とならなくなりました。この先、感染症法の分類移行など政策や制度は変化していくも、肝心なコロナウイルスは弱毒化していないことを理解しつつ、安心・安全な施設づくりを継続・発展させていきたいと思います。

＜新施設建設延期にともない生じた問題（定員）＞

当初は2022年の4月に生活介護事業所「第二ポップコーン」を開設する予定で進めていました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により半導体などの電子部品が関係する製品や、鉄骨等の資材の調達が困難になり、工期を延長せざるを得ない状況となりました。具体的な開設時期の予定が立たない中、4月からは新しい仲間が加わることが決まっていたため、一時的にポップコーンにて定員を超える人数を受け入れて事業を運営する旨を相談。（登録者数39名。1日平均利用者人数35名となる。）しかしながら、安全上の理由から定員数を超える受け入れは認められず定員増の変更手続き申請を至急行うように指導がありました。早速、仲間、保護者に上記のことの説明とお詫びをし、4月は1日利用者数30名を超えないように調整しました。また5月からの定員増（35名）の申請も無事に通ったことで、ようやく受け入れ人数の問題は解消しました。5月中旬に第二ポップコーンの建設工事が完了する見通しとなり、6月1日からの事業開始とになった次第です。

6月からは、開設した第二ポップコーン（30名定員）に既存の仲間19名が異動し、ポップコーンは定員を従来の30名に戻した上で、残った20名の仲間たちと再スタートをはかりました。コロナ禍で作業や活動をどのように進めたらよいのか悩みながらも、一人ひとりが主役になれる時間を大切にし、安心して過ごせる環境づくりを目指し取り組んでいます。

1　＜活動報告＞

「生活介護事業（ポップコーン）」

「作業」は、感染対策を徹底しつつ仲間たちの得意なペットボトルラベル剥がしや回収機への搬出、工業製品の解体と分別（金属とプラスチック等の仕分け。例えばＣＤとケース、リモコンと箱の分別など）を実施しました。作業で得た収益は仲間たちのお給料として毎月支払いました。ペットボトルリサイクルは重度の障害をもった方たちにとって、とても分かりやすい作業でラベルを剥がす、ボトルを袋に入れる、手渡しするなど分業で行い、その方の能力が十分発揮できるところで作業を行いました。また、一部の仲間たちは、今年度も１日通して作業を実施する日を週２日設けました。継続して行っていることで、着実に作業意欲（始まりの時間が近づいてくると準備にとりかかる仲間など）や能力の向上（金属部品からのテープはがしやハサミを使い配線をきる事など細かな工程）がみられます。

今年度から新たな取り組みとして、仲間たちに「今日やりたい作業を自分で選択し、作業を行う」こと。感染基準の緩和に伴い、10月からは、お仕事を通し地域の方との触れあいと題し「近隣の企業（坂口捺染さん）へアルミ缶回収」を始めました。様子などを紹介します。

日常生活のなかで、何かを選ぶ（意思表示）機会はほとんどなく、最初は、作業を選ぶ（2択）ことの理解できなく固まる仲間がほとんどでした。職員は、絵カードを使用し、問いかけや見守りを繰り返すことで、少しずつ表情や視線、声を出し教えてくれるようになりました。今では、自分で作業内容を選べるようになった仲間たちもいます。

近隣企業（坂口捺染さん）へのアルミ缶回収手順は、事務所へ挨拶、自動販売機となりのボックスからアルミ缶を袋に入れる、袋を持つことです。外へ行くことの好きな仲間は、以前は外＝公園でした、今では外＝「仕事は、なっせん」と答えてくるようになりました。なにより、坂口社長の仲間たちへ接し方には感謝、感激です。挨拶にいくと仲間たちのそばまできて目をみて挨拶をしてくれます。その為、挨拶が苦手な仲間たちも今では、進んで挨拶行くようになりした。今後も仕事を通し人との触れ合いを大切にしていきた考えています。

「活動」は、今年度、前半は、コロナの影響で仲間たちの楽しみにしていることが次々に中止や自粛せざるおえない現状が続いた。コロナの基準緩和に伴い、あらためて職員間で話し合い、仲間たちの楽しみや笑顔を取り戻すためにどのようにしたらよいのか。当施設が大切にしている実体験（特に外出活動）こそ仲間たちの成長に繋がっていくと考えた結果、ないもはつくることにしました。そこで、第二ポップコーン駐車場を会場にみたて合同の運動会を企画、開催しまいた。当日は、保護者の方の観覧や応援、そして各種種目に参加して頂いた事で、仲間たちのモチベーションもさらに上がり「次は勝つ」「もう１回やりたい」「がんばれ」などの声が聞こえてきました。それ以外の活動として、さつまいも収穫、焼き芋、岐阜バス乗車体験、クリスマス会、初詣、成人を祝う会、調理実習等を行いながら仲間たちの笑顔や主役になれる時間を大切に捉え今も取り組んでいます。

「生活介護事業（第二ポップコーン）」

６月１日のオープンに先立ち、５月30日には開所式と内覧会を開催し、多くの方にご臨席を賜りました。施設建設に携わった設計業者と建築業者には仲間から感謝状とお礼の花束を贈呈しました。共栄土木建築のお鷲見社長からは「こんなふうにしてもらったのは初めてのことだ」と涙ながらに挨拶を述べられていたのが印象的でした。

いよいよスタートの日を迎え、当初は仲間たちが環境の変化（ポップコーンからの異動）をうまく受け入れてもらえるかを懸念していました。はじめの数日は、気持ちの動揺が行動に表れた

のではないかと思われる場面も見受けられたものの、それも職員が想定していたことからすれば些細なことで、みんなが新しい施設を柔軟に順応することができました。施設建設の段階から見学を重ねたり、ポップコーンで行ってきた一日の流れや内容を変えなかったことが功を奏したものと考えています。

今年度は隣接するグループホームの敷地に畑があるという利点活かし、年間通して野菜にかかわることを作業や活動の中に取り入れてきました。トウモロコシ、ジャガイモ、ナス、キュウリ、サツマイモ、カボチャ、ダイコンといった野菜を播種、育苗、植え付け、潅水、収穫といった作業を仲間と一緒に行ないました。実際に野菜が生長する（あるいは虫などの食害に晒される）様子を目の前にできたことはより関心を惹けるものだったと感じています。そして、食べることが好きな仲間が多いため、ナスやキュウリは浅漬けにしたり、サツマイモは蒸しケーキにしたり、干し芋にするなど仲間も調理に参加しながら、ちょっとしたおやつを楽しむことができました。

また、自由な外出が困難な中、施設内でできる活動を様々な団体からサポートしていただいたことも特徴的なことのひとつです。岐阜県遊技業協同組合のご厚意でパチンコイベント（あいぱちプロジェクト）を施設内で開催できたり、本巣市の駄菓子屋「つきの家」からは年間３回も出張販売をしてくださったり、岐阜県障害者スポーツ協会からはボッチャボールと関連用具一式購入の助成を受けることができました。特にボッチャは、身体的に重い障害のある仲間も容易に参加できるレクリエーションとして、購入して以降毎週取り組んでいます。

施設が二つに分かれたことで、仲間からは「ポップコーンのみんなに会いたい」という声も聞かれました。そこで、オンラインで二つの事業所をつなぎ、それぞれの様子を見る機会も設けたこともありました。しかしながら、実際に顔を合わせる機会に勝るものはなく、先述の運動会や成人を祝う会などで「久しぶり」などと声を掛け合う場面は、会えた嬉しさが表情から読み取れました。今後も合同の企画で、互いの交流が図れるようにしていきたいです。

第二ポップコーンとして、大きな事故もなく無事に初めの年度を終えることができました。一方、事業規模が大きくなったことで、ポップコーンが創設時から掲げてきた理念を新しい職員にも伝えることができたか、ポップコーンやふぁみりぃポップとも連携をとりながらよりよい職員集団づくりができたかなど、まだまだ課題は多いです。第二ポップコーンだけでなく法人全体を見据えながらの事業所運営が必要だと感じた１年でした。

「就労継続支援Ｂ型事業（ポップコーン）」

今年度の登録者数は５名ですが、毎日通所する仲間は１名。毎日通所できない４名のうち２名の方は、他サービスを利用しているため、週１回の利用。他の２名の方は、様々な理由（てんかん発作の影響で外出できない。また、長期入院）で通所すること自体が困難な状態です。

主な仕事の内容は、コーヒーの製造、販売。工程は、コーヒー豆のピッキングからグラムを測り袋詰め、バザー販売(岐阜市庁舎福祉ショップ Oh.EN)など多岐に渡ります。その為、仲間の作業へ向かう気持ちや思いを大切にしたり、作業の予定や段取りも職員と一緒に考えながら行う。見通しを持ち、気持ちに寄り添う事で、バザーの準備など自ら行う姿もみれた。着実に自分の仕事だというプライドと自信をもてるようになってきています。

今後は、バザー販売に定期的に出店し商品を知ってもらいながら、新商品の開発や販売（社協実施：商品開発、改善等のコンサルタント派遣事業などを活用)、そして既存商品の販路を拡大し工賃アップを目指していきたいです。また、仲間たちの出勤日数をどのように増やしていったらよいのかが課題であるとともに、通所者が増えるように各機関（特別支援学校や相談支援事業所、岐阜市就労説明会など）への働きかけを積極的におこなっていきたいと考えています。

2　各事業の取り組み

「生活介護事業（ポップコーン、第二ポップコーン共通)」

重度・重複障害者を中心に生産活動や創造的活動を通して発達を支援し、地域社会の中で生きがいを感じていけることを目標にしながら仲間にはたらきかけを行った。

（1）　個別支援計画作成

（2）　身体等の介護

（3）　入浴（週２回)

（4）　生産活動

・雑貨製品の製造販売（主にビーズ製品)

・リサイクル作業（アルミ缶、ペットボトル、飲料用パックの回収、分別、搬出

※地域からのアルミ缶回収を月に１回

障がい福祉施設こぱんだからのアルミ缶・ペットボトル回収を週１回実施

・軽作業（工業製品の解体・分別)

・野菜の生産、販売

・パソコンに入力による部内報（仲間新聞）の作成

（5）　創造的活動

・リトミックなどの音楽活動　・工作や芸術などの創作活動　・調理実習

・おやつづくり　・ボッチャなどのレクリエーション

（6）　外出（散歩、給料日企画の買い物など)

（7）　送迎

「就労継続支援Ｂ型事業（ポップコーン)」

自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、生産活動その他機会を通して、その知識及び能力の向上のために支援を行った。

身体的に重度な方には、休憩、ストレッチをとることを進めるなど体調面を留意して行った。

（1）　個別支援計画作成

（2）生産活動

・珈琲製造、販売　・バザー販売（毎月２回　岐阜市庁舎福祉ショップ Oh.EN)

（3）　送迎

（4）　工賃

3　2022年度　年間延べ利用者数及び開所日数

ポップコーン

生活介護事業　（定員30名　2023年3月31日　登録者数20名)

（1）開所日数　243日

（2）年間延べ利用者数　4903人（6月から1日平均利用人数：17.8人)

就労継続支援Ｂ型事業　（定員10名　2023年3月31日　登録者数5名)

（1）開所日数　243日

（2）年間延べ利用者数　387人（1日平均利用人数：1.2人)

第二ポップコーン

生活介護事業　（定員30名　2023年3月31日　登録者数19名)

（1）開所日数　202日

（２）年間延べ利用者数　　2974 人（1 日平均利用人数：14.7 人）

4　年間行事

4 月　入所式・年度始め式　　9 月　愛護バス事業（遠足）　11 月　運動会　　12 月　クリスマス会
1 月　新年会・初詣　　2 月　成人を祝う会

令和４度事業報告

特定相談支援事業所　ステップ

・活動報告

障害者（児）ご本人やご家族の願いに寄り添い、その人らしく地域生活が送れるようサービスを提案しつつ、サービス等利用計画を作成しています。具体的な支援については、関係機関・関係者と情報を共有し、ご本人やご家族の意向に沿っているか？を確認しながら進めています。

令和４年度もコロナ禍で、やむを得ず電話にて様子を窺うことが多い状況でした。が、表情をみながらお話したい方には、感染者数が少ない時には、週２回のＰＣＲ検査を行っている旨をお伝えし、相手様のご承諾を得て訪問することもありました。

相談の中で困ったことは、初めてお会いする精神障害の方から、サービス等利用計画をつくって欲しい旨の依頼を受け、まず申請者の現状（基本情報）を作成するわけですが、どこまでお聞きしても良いのか？あまり根掘り葉掘りお聞きするのは傷つけてしまうのではないか？などの思いから、最低限聞きしたいこと事に対しご本人のお答えされることだけを記し作成していますが、実は、それはほんの一部で他の大事なことがあったのに・・・ということが多々ありました。そのあたりをとても難しく思っています。

もう一つは、居宅介護事業所のヘルパーさんが不足しているようで、利用の要請を受けて事業所さんに当たっているのですがなかなかありません。
福祉関係全般の人材が不足しています。

・扱い件数

障害者特定相談支援事業
　サービス等利用計画案作成
　モニタリング報告書作成　　合計　208件

障害児特定相談支援事業
　サービス等利用計画案作成
　モニタリング報告書作成　　合計　　8件

令和４年度事業報告
共同生活援助事業所（グループホーム）　　ふぁみりぃポップ

入居者　５名
開所日　月、火、木、金の夕方から翌朝　月１～２回土曜日の夕方から翌朝
※祝日はお休み
※ポップコーンの開所日に合わせて変更有

大切にしたこと

・入居者の第二の自宅としてくつろげる場になるように努めました。
・必要に応じて保護者と密に連絡をとりあいました。
・健康状態の把握、管理に努めました
・地域の方との交流をもつため、自治会活動等に参加しました（職員）。

具体的な支援内容

（１）共同生活援助計画の作成
（２）食事・排泄・入浴等日常生活の介助
・入居者の安全・安心を第一にして介助しました。
・てんかん発作をもっている入居者には、発作時の転倒による怪我などの未然防止に細心の注意を払いました。
（３）趣味やお楽しみの時間の提供
・ゆったりした時間の中でくつろげるよう、入居者それぞれにあったテレビや DVD やパソコン雑誌、タブレット端末を用いて取り組みました
・仲間の誕生日祝いを企画しました。
（４）日常的な相談や話し相手
・日常の中で話し相手になりました。
（５）食事の提供
・健康に気を配った献立、心をこめて調理しました。
・調理の計画を立て、献立を作り毎週配布しました
（６）健康管理・金銭管理の手助け
・気候に合わせた室温、衣服、寝具を心がけました。入浴方法も気候に合わせて調整しました。
・必要に応じて、内科や歯科などの受診、グループホームでの訪問診療の調整・同席しました。
・服薬、与薬管理を徹底しました。
（７）夜間における安全確認や身体介助、排せつ介助
（８）緊急時の対応
（９）日中活動の場等との連絡・調整
・仲間の状態等の情報を書類や FAX でポップコーン（日中活動施設）と毎日共有しました。
（１０）衛生面の管理
・行政からの通知を参考にしながら、引き続き新型コロナウイルスの感染対策を行いました。

・CO2 検知器の利用　　換気　職員のＰCR 検査

一日の流れ

夕方	16 時	帰所・入浴	翌朝	6 時 15 分	起床
	18 時 15 分	夕食		7 時	朝食
	19 時	自由		8 時	出発準備
	21 時 30 分	リビング消灯		9 時 15 分	出発
	23 時	個室消灯			

年間の記録

2022 年

4 月

地域　排水路の清掃参加（職員）

7 月　誕生日会

8 月　地域　排水路の清掃参加（職員）

9 月　誕生日会

10 月　誕生日会

12 月　誕生日会

2023 年

2 月　誕生日会

3 月　地域　排水路の清掃参加（職員）

※新型コロナウイルスの対応　（発熱対応　代替えサービス　陽性者・濃厚接触者）

※健康管理での病院・保護者・施設の連携

	令和３年度	令和４年度
開所日	２９７	３０７
延べ利用人数	１３８４	１４７６

※令和３年度２月に１名の利用者の区分が６から５に変更

令和４年度事業報告
短期入所事業所（ショートステイ）　ほたる

開所日　月、火、木、金の夕方から翌朝
※祝日はお休み
※ポップコーン（日中活動施設）の開所日に合わせて変更有

受入実績

※利用登録者　２１名（＋３名）　令和５年５月現在

令和４年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	２７	２６	２６	２６	２７	２５	２６	２５	２５	２４	２４	２６	307

※前年度（＋１０日）

ほたる利用状況

障害程度区分	3	4	5	6	合計	平均利用者
令和３年度		６８	１３５	２４１	４４４	１．４９
令和４年度	2	５２	１７９	２５８	４９１	１．６０

※利用状況は延べ人数

大切にしたこと

・安心して過ごしていただけるように、仲間一人ひとりの生活の流れや職員の関わり方に注意を払いました。
・日ごろから保護者との連絡を密にし、必要なときに話し合いをもちました。
・家庭の緊急時は受け入れに努めました。

具体的な支援内容

（１）食事・排泄・入浴等日常生活の介助
・利用者の安全・安心を第一にして介助しました。
・てんかん発作をもっている利用者には、発作時の転倒による怪我などの未然防止に細心の注意を払いました。

（２）趣味やお楽しみの時間の提供
・ゆったりした時間の中でくつろげるよう、テレビやDVDやパソコンタブレットを用いました。

（３）日常的な相談や話し相手

（４）食事の提供
・健康に気を配った献立、心をこめて調理しました。

（５）健康管理・金銭管理の手助け
・気候に合わせた室温、衣服、寝具を心がけました。入浴方法も気候に合わせて調整しました。
・服薬、与薬管理を徹底しました。

（７）夜間における安全確認や身体介助、排せつ介助

（８）緊急時の対応

（９）日中活動の場等との連絡・調整

・仲間の状態等の情報を書類やFAXでポップコーン（日中活動施設）と毎日共有しました。

（１０）衛生面の管理

・行政からの通知を参考にしながら、新型コロナウイルスの感染対策を行いました。

・CO2検知器の使用

一日の流れ

夕方	16時	帰所・入浴	翌朝	6時15分	起床
	18時15分	夕食		7時	朝食
	19時	自由		8時	出発準備
	21時30分	リビング消灯		9時15分	出発
	23時	個室消灯			

※ショート利用者の発熱・発作などの対応

※保護者からのショート緊急要請・土曜日開所（怪我・入院・冠婚葬祭など）

※コロナウイルスによるショートの予定変更、健康管理などの対応